

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	・ ミャンマー政府（農業灌漑省農業局）主管農林業研修センターの施設、機材等の整備並びに職員の能力強化と研修内容の改善を図る。 ・ イェサジョ郡内の事業対象地における住民の生計が向上する。
(2) 事業内容	<u>2. 農業用水へのアクセス改善を通じた農業生産性の向上</u> ①既存灌漑システムの修繕、強化 アニャトー村では、2013年の大雨で破壊されたミニダムの堤防の一部を埋め補強する工事が終わった。また、以前のスピルウェイが、幅30フィートだったものを100フィートまで広げ、水の出口の基盤をコンクリートで固める（広さは100フィート×86.6フィート）工事を実施中で、9月中旬までに完成する予定。またトータルで7,000フィートの灌漑水路に水門を7つ設置した。チャウダカ村では、トータルで4,561フィートの素掘り水路を拡張し、水路の底のレベルをとって水が流れやすくする工事を行い、これまでに約80%を終了した。その内レンガを敷きコンクリートで固める水路は475フィートあり、これまでに約150フィートが終了した。これらの工事は9月末までに完成の予定。 ②既存灌漑ダムの修繕 サリンゴン村では、予定の3000フィートのうち、約600フィートの灌漑水路のセメント・レンガ補強工事が終了した。また、別に素掘りの灌漑水路2060フィートを拡張し、高低差を調整して水がよく流れるようにする工事は約70%が終了し、9月末までに完了する予定。 ③耕地の整備 タテイゴン村の対象地域で5つの井戸掘りが終了した。そして、10月までにエンジン、ポンプ等の灌漑設備を整備し、未利用の土地の3分の1を耕地化して灌漑水の活用を始める予定である。 ④農業研修の実施（640戸） 上記①～③の直接受益者およびその他の灌漑施設がある地域の住民383戸を対象に農業研修（作物栽培、水管理、営農等）を実施した。 <u>3. 家畜飼育（養豚、養鶏）支援</u> ① 豚の配布・飼養支援を行う（30村内の400戸） 8月末までに簡易豚舎を367戸に配布。残り33戸に対しては9月中旬まで配布終了予定。子豚はこれまでに201戸に1頭ずつ配布し、11月までに配布を終了予定。すべての子豚が順調に育っている。 ② 現地種鶏の雛の配布・飼養支援を行う（30村内の200戸） 8月末までに簡易鶏舎を100戸に配布。ひなの配布は、9月下旬より始める予定。子豚の配布活動を先に進めたために、養鶏は若干遅れている。

	③ 研修センターに於いて、上記の受益者（600戸）を対象に養豚、養鶏に関する研修を8月初旬終了した。 ④ 研修センター内の加工施設改修工事は8月中旬に約80％が終了し、施設内部の床にエポキシ樹脂塗料を塗る作業を残しており、下地乾燥を待って9月末までに完了する予定。食品衛生管理の専門家派遣は、最初の2ヶ月派遣は終了。残り2ヶ月の派遣を10月～12月実施予定。 4. <u>研修センターの機能強化（研修センターの機材の更新）</u> ① トラクターのアタッチメントは予定通り購入した。 ② 井戸の掘削及び電気モーターポンプの整備について、井戸の掘削は終了した。
(3) 達成された効果	2. <u>農業用水へのアクセス改善を通じた農業生産性の向上</u> ①既存灌漑システムの修繕、強化 チャウダカ村は、水源地域に降雨量が少なく、まだ灌漑水の活用は始まっていない。 アニャトー村周辺では、今年の雨季前半に雨がよく降った。そのため、整備が終わったダム湖には灌漑をおこなっている中で、まだ50％程度の水が貯水されており、既に予定の約16ヘクタールを超える面積に田植えが行われた。そして、水門設置により、従来より水位が上がり少し高い田にも灌漑水が届くようになった。また、水路の整備により水漏れが減少し、水路底の勾配をなだらかにして水が水路の先端まで届くようになったため、ダム湖から出る水の活用が増加した。 ②既存灌漑システムの修繕 サリンゴン村は、水源地域に降雨量が少なく、まだ灌漑水の活用は始まっていない。 ③農業研修の実施 アニャトー村、サリンゴン村、チャウダカ村のそれぞれでは灌漑水利委員会が組織され自主運営されている。 農業研修の成果：研修を受けた15％ぐらいの農家は、研修で学んだ自然農薬等を自ら作って活用し始めており、これからの豆栽培等での利用も期待される。また、研修内で学んだ有機肥料を自ら作成し、それぞれの田畑に利用している農家も見られるようになった。 また、灌漑水が十分使える農家の中には研修で学んだダボック式稲作（の育苗法）を取り入れたり、数パーセントの農家は、（ローカルではStar Peaと呼ばれる）新しい豆の品種の栽培を始めている。また、5％ほどの農家は、改良農法を使って自家消費のためにトマトの栽培を始めている。 3. <u>家畜飼育（養豚、養鶏）支援</u> ①子豚の配布・飼養支援を行う。30村400戸 子豚の配布を受けた201戸の受益者は全世帯で飼養を続けている。時々病気に罹る子豚もいるが、プロジェクトスタッフがすぐに

	訪問して治療を行っている。豚の成長を促すために、もう一匹を自分で購入し、簡易豚舎の中に2頭を一緒に入れて飼っている農家もいる。 ②現地種鶏の雛の配布・飼養支援を行う。30村200戸ひなの配布は9月下旬から始める予定。 ③食品加工施設の改修 改修が8割終了し、9月に全て終わる予定。 <u>4. 研修センターの機能強化（研修センターの機材の更新）</u> ①トラクターのアタッチメントの導入 以前は、機材が故障しやすく修理に時間を取られ、時間のロスが大きかったが、それが改善され大変効率よく仕事ができるようになった。 ②電気モーターポンプの整備 井戸掘りはおわった。
(4) 今後の見通し	8月末までに活動全体の約7割が無事に終了した。 今後、アニャトー村、サリンゴン村、チャウダカ村のミニダム、スピルウェイ、灌漑水路の補修は9月末までに完了する予定。農業研修は、9月以降、残り257戸を対象に行う予定（合計640戸）。村の準獣医育成のワークショップを、エサジョ郡畜産局の支援を得て9月半ばに実施する。その後、各村にキャビネット、養豚用の「置き薬」を設置する。タテイゴン村では、未利用の土地が約20ヘクタールあるが、10月からポンプエンジン配備により6ヘクタール強の土地が耕作に活用される予定。 研修センター圃場の井戸の掘削及び電気モーターポンプの整備について井戸の掘削は終了した。チンドウィン川近くの水路が洪水によって壊れ、川からため池に水が来なくなったため、9月半ばにモーターポンプを購入し活用を始める。 脱穀機は、稲の収穫が11月になるので、10月に購入する予定。食品加工所機材の購入は終了。食品加工所改修工事は、残りの工事は9月末までにエポキシ樹脂を床に塗り、エアコンを購入・設置し、廃水の工事を行う。施設の完成後、村の養鶏サブプロジェクトの受益者から鶏を購入し、試験的な食肉加工を始める。 家畜飼養支援の充実を図るため、プロジェクトスタッフが各村を回りながら合わせて病気予防の指導を行い、飼育途中の家畜の問題を早期に解決する姿勢、技能を各村に移転する予定である。